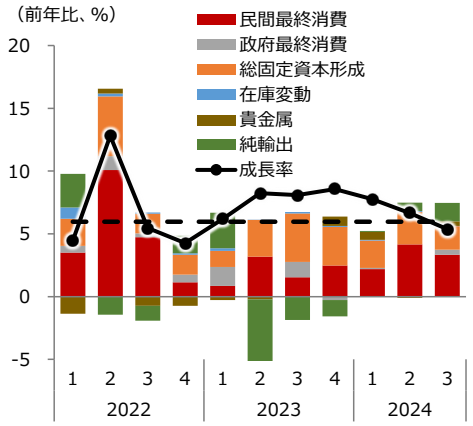
インド

GDP（2024年7-9月期）

成長の勢い鈍化も、新興国向け輸出拡大が成長を下支え

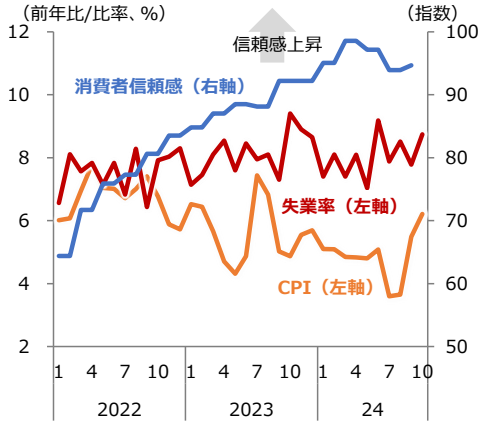
政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 実質GDP成長率



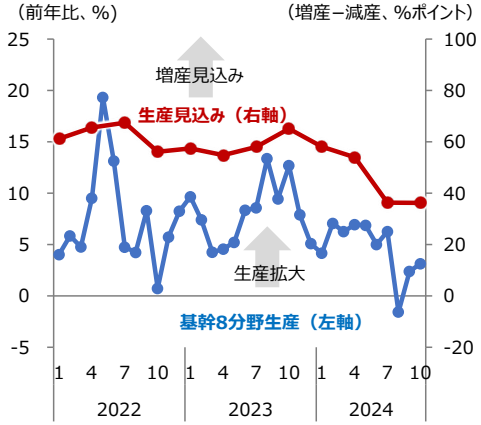
注：棒グラフ合計と線グラフの差は、統計誤差。破線は17-19年の平均。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

2 消費者信頼感・失業率・CPI



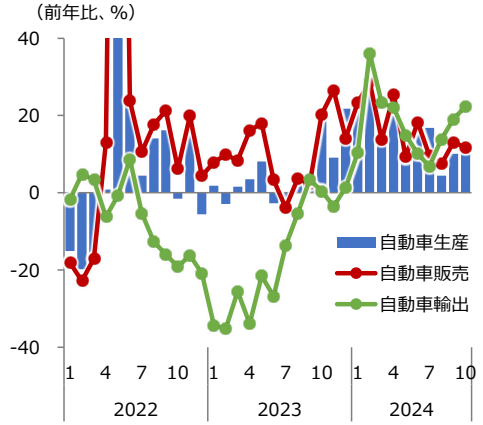
注：直近は、消費者信頼感は24年9月、失業率、CPIは24年10月。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

3 基幹８分野生産と生産見通し



注：基幹8分野は石炭、原油、天然ガス、精製品、電力、鉄鋼、セメント、肥料で工業生産の約4割を占める。生産見通しは、インド中銀が約千社を対象に四半期ごとに実施している調査。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

4 自動車生産・販売・輸出



出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年7-9月期のインド実質GDP成長率は前年比+5.4%と、24年4-6月期の同+6.7%から鈍化、22年10月以来の6%割れとなった。成長減速は誤差要因の影響が大きいものの、民間消費の伸び悩みが目立つ結果となった（図表１、■）。産業別では、製造業の成長の勢いが減速している。
- インド中銀は、GDP統計発表後に開催（12/4～6)された金融政策委員会（MPC）声明で、24年度（24年4月～25年３月）の実質GDP成長率見通しの下方修正（前年比+7.2%→同+6.6%）を公表している。

今後の注目点

- 今後の注目点は、国内消費の拡大ペースにある。インド中銀は、12月MPCで預金準備率は引き下げたが、利下げは見送った。その背景に、10月CPIがインド中銀の上限目標6%超となり、インフレ圧力が再燃していることがある（図表2）。さらに、失業率も高止まりしており、国内消費の急拡大は見込み難い。
- ただし、消費の伸びが鈍いなかでも、好調な輸出に支えられ（図表１、■）、生産は底堅く推移するとみる。悪天候等から8月に前年比マイナスとなった基幹8分野の生産はプラス圏へ浮上、10月公表のインド中銀調査の生産見通し（増産－減産）は横這いを維持している（図表3）。
- 自動車セクターを例にすると、24年半ば以降、販売伸び率が鈍化する一方、輸出は伸びを拡大している（図表4）。インド自動車セクターは、小型車を強みにサウジアラビア、UAE、南アフリカなどの新興国向けを主体に輸出を伸ばしている。こういったインド独自の戦略での国際競争力伸長は、モディ政権が掲げてきた「メイク・イン・インディア」の成果であろう。
- 先行き、インド経済成長率は、国内消費の拡大ペース鈍化が下押し要因となるが、インドの地政学上の重要性に着目した投資、その成果となる新興国などへの輸出拡大が成長の下支えとなることを見込む。24年度の実質GDP成長率は、前年比+6%台半ばの成長は確保できるであろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.